

2021年4月1日

21年度 新入社員入社式式辞

(スピーチ用テキスト)

「人は仕事で育つ。困難な仕事への挑戦が人を磨く。

挑戦しつつ書に学び、人に学び、現場現実現物に学んで、

大きく成長して欲しい。」

— 自ら考え調べ、専門家に乞い、問題解決に繰り返し努力する

(株) アイヴィス

代表取締役 石和田 雄二

◇起　：　新型コロナは戦時、重苦しく厳しい1年だった。

コロナ禍でも自然の樹木が皆さんの門出を祝福している。

アイヴィスへの入社、おめでとうございます。

この一年はコロナ禍の下、

人の動きも止まり経済も停滞したが、春は巡って来た。

桜は咲き、青空に映える樹々たちの若葉が美しい。

落ち着きのある安定した時代も悪くないが、

時代の変わり目は旧体制が崩れ、構想を持った企業や

実力ある個人、未来志向の若者たちの活躍の場が広がる。

滅多にないチャンス、世代交代の時となる。

予定していた大型案件や出て来る筈の DX 案件が止り、

当社も、経営的には重苦しくも厳しい1年だった。

結果的には、新人60名が育って増収増益、

何より先端技術と基盤系技術の足下を固められた。

優秀な新人78名を迎えることが出来たことも成果だ。

◇承　：　コロナの出口が見える年、新たな戦後が始まる。

ポストコロナは新時代の幕開け、成長の時代が始まる。

ワクチン接種の浸透で、年度後半から出口が見え、

投資が回復、経済活動が活発化する。

先送りした IT 投資も動き、先取りの脱炭素投資も動く。

景気浮上を牽引する財政もデジタル基盤整備に動く筈だ。

遅れて回復する世界経済が追随、

来年度以降の 3~5 年間、

日本経済は、世界の復興需要を取込み長期の成長が続く。

IT 高度化と脱炭素の拓く未来は、どんな時代なのか？

第 3 次 AI ブームと騒がれた深層学習、IOT、ビッグデータ

などの 10 年来の技術は、試行的研究開発を超え、発展的に

現実課題解決の役割を担う所まで来た。

AI は専門家を超える予測・認識、分析を行い、

クラウド上のビッグデータの特徴抽出や自動運転を支え、

DM 社の α FOLD はたんぱく質の分子構造解明まで行う。

高度化した基盤系 IT の役割も大きい。

オンプレが処理データを抱え込む縦割り組織の時代から、
クラウドでリアルタイムにビッグデータを活用出来る時代へ、
利用者は、

アジャイルとコードレスで自らシステムを開発し、
企業は DX 化で本業のビジネスモデルを変革する時代だ。

現実世界もコロナ後に向けて脱炭素へ大きく舵を切る。

世界中が脱炭素目標を共有して明確化、農業、動力、情報に
次ぐ第 4 次産業革命、グリーン革命へ急速に動き出す。

これは製品製造の CO2 排出に止まらず、部品や燃料の生産、
機械稼働のサプライチェーンの排出量まで規制するので、
多くの産業の在り方を変え、産業の一大変革となる。

IT 高度化と脱炭素化の動きでどんな社会変化が起きるか、

ここに来て、急展開を始めている自動車産業を例に

CASE 革命を見てみよう。

CASE は Connected、Autonomous、Sharing、Electronic

の頭文字、自動車産業の 100 年一度の大変革とされる。

IT の高度化は、

世界の走行中の何百万台の車と車載部品のデータを集めて

分析、渋滞や故障・障害を予知、サービス向上に活かす。

これが Connected、ビッグデータ分析を先端技術が担う。

テスラは自動運転ソフトを高度化し、細かく Download、

その都度、ソフトで儲ける仕組みを確立した。

Autonomous の時代の一側面だ。

車は所有から利用の時代、自動運転でタクシーを動かせば

料金も下がり、深夜でも稼働させられる。

ウーバーは料理配達より Sharing を目指した会社だ。

トヨタも車の販売から共有や利用を意識し、モビリティや

スマートシティの開発とそのビジネス展開に軸足を移す。

そして EV、脱炭素で一気に社会変革の一大潮流となる。

EV になると部品はガソリン車の 1/5、車体製造の専業や

モーターなど車載電子部品の専業も生まれて、アップルや

百度、ソニーや鴻海が自動車産業に参入する時代になる。

環境変化の激しい時代、

追従出来ない企業は時代から捨てられる。

変化の予兆は経験者が気づく前にデータが教えてくれる。

もう一つ、これからのデータの位置付けにも言及しよう。

社会システムは CPS の形を取り、データの新時代を拓く。

現実 (Physical) の世界に対応するモデルを Cyber 空間に

構築し、現実の変化をデータでモデルに伝え、

Cyber 空間で最適化や問題の解決をシミュレートする。

その知見に基づいて現実の世界に Feedback、制御する。

これが CPS、Cyber Physical System と呼ばれるもので、

IOT をベースにした都市システムなどに応用される。

DX (Digital Transformation) も情報技術ではなく、

データ活用によるビジネスモデルの変革だ。

以上は、IOT とデータの重要性を示唆する応用例だ。

過去千年のデータを活用出来れば、歴史家を超える筈だ。

愈々、データ時代の到来だ。

データの時代、それは変化への迅速な対応の必要性だ。

環境変化に対応するにはクラウドと先端技術の分析力だ。
時々刻々発生する膨大なデータを管理するクラウド活用と
そこから知見を得る分析ツール、分析する専門家が必要、
中でも、IOT時代はメガクラウドの活用が鍵、
設備は所有から共有化することでコストの低減も可能だ。

IT サービスも変革の渦中にあり、業界構造が大きく変る。
必要なものは先端と基盤の最新技術と時代を拓く構想力、
日本の IT サービスの特長は、事業当事者でない元請が担当
顧客の事業構造を変えない効率化・自動化が中心となる。
事業構造が大きく変わる今の時代には、役に立たない。
旧元請の下で活躍した IT サービス企業の淘汰選別も進む。

次代の IT サービスは顧客中心、クラウドで開発も減る。
元請に頼らず、顧客の業務を知り、長年の信頼関係を維持
その上で基盤技術に加え先端技術を持つことが必要条件だ。
先端と基盤備え、若く無名の実力企業が業界に躍り出る。

◇転　：　10 年来の成長戦略が活きる時、現実に学び成長

これからはどんな企業が伸び、当社は大丈夫なのか？

当社は、通信と IT 高度化推進の雄である NTT データと
脱炭素革命の渦中にあるトヨタ自動車の両社を顧客に持つ。

トヨタ情報部門とは 30 年以上の協業関係、

車体設計から工程管理、熱流体解析から電池の劣化解析、
全固体電池の安全性まで、最近は故障の予知や診断、AI の
応用認識やデータ分析など、先端技術開発に重点を置き、
自動車変革 CASE への対応案件も TS の下で支えている。

NTT データとも、

テレコム事業中心にドコモのバックオフィス、契約処理や
顧客管理、データマイニング分析を 20 年近く支えてきた。

昨年 5 月には、技術革新統括本部と業務資本提携を結び、

先端技術と NTT データの基盤更改開発を中心に、

協業関係を一段と深めている。

IT 業界の利用と提供側の 2 大企業、課題も抱えている。

日本経済を牽引する両社、更なる挑戦と協業に努めたい。

人と技術はどうか、

先端技術人材 80 名、会社支える ITSS 人材 400 名の陣容、

先端技術の人材と実績では、

同業他社は勿論、大手 IT 企業現場技術部隊の半歩先行く

平均年齢 34 歳、超 500 名の集団と 30 年余の信頼と実績

今期 78 名入社、来期 100 名予定、次代への基盤整備だ。

規模は、常時 5 部門を維持、衰退部門の整理と成長部門の

育成を同時並行的に実施する戦略で環境適応性でもある。

質量共に、コロナ後の急成長時代には優位性が表出する。

若手の高度専門人材は、今、急に採用を始めた訳ではない。

クラウド、IOT、ビッグデータ、AI など次世代の先端技術

が出て来た 10 年前ごろから、意図的に採用を拡大した。

今では 300 名を超え、全技術者の 7 割近くを彼らが占め、

分野的にも基盤系と先端技術系の人材需要を支えている。

ポストコロナは IT の急成長期、天地人が揃い始める。

当社もここに来て、時代に半歩先行できる会社になった。

◇結　：　皆さんに期待、当社と日本の未来を共に拓こう。

当社は、2025年にハードも含め100名規模のR&D組織と
全社で平均年齢35歳、高度技術者1千人の会社を目指す。

25年度に業界第一線へ、その後の飛躍の主役は皆さんだ。

新人の皆さんへの期待は、

その時に他社に遜色ない指導者専門家になって貰うこと。

それまでの3年5年も、挑戦しつつ書に学び、人に学び、

現場現実現物に学んで、大きく成長して欲しい、と思う。

人は仕事で育つ。困難な仕事への挑戦が人を磨く。

以下の3項は新人に毎年、伝えている私のメッセージです。

☆ 基本の軸は5年後の自分の姿、目標をしっかり持つ。

☆ 将来から今を考え、自分の今の不足分を他者に学ぶ。

☆ 可能性を信じ、目標に向い地道な努力を積み重ねる。

日本は今、現実の課題と対峙してITが大きく活躍する時、

当社も創業33年にして始めて感じる成長期です。

共に当社と日本の未来を拓いて行きましょう。

最後に、まだ続くコロナには十分な注意をお願いしたい。